

2021年度第4回理事会議事録

1. 日時：2021年12月4日（土） 13:30～ 16:30
2. 場所：東京都 新宿区霞ヶ丘町4番2号 会議室9 及びオンライン会議（Zoom）
3. 出席者（*テレビ会議による出席）

理事：総数27名中

松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 袴田登喜造副会長兼専務理事 *横山幸子副会長
*大野明敏常務理事 *三木容子常務理事 *平井宏治常務理事 佐橋朋木常務理事
近藤正晃ジェームス常務理事 小風明常務理事 源洋子理事 *成山悟史理事
*田口亜希理事 *松島愛理事 *上之園正一理事 *酒寄貴瀬理事 穂苅美奈子理事
*寺澤良悦理事 *田中僚一郎理事 *横沢聡理事 *尾崎和郎理事 高橋信吾理事
*仲本渚理事 五十嵐治人理事 *田中辰美理事

以上出席：総数25名

監事：総数2名中 香西俊輔 岸高清 以上出席2名

4. 議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長兼専務理事、横山副会長、香西監事、岸高監事
5. 袴田専務理事が13時30分に理事25名出席で成立するとの宣言をした。
6. 議長：代表理事 松丸喜一郎

理事会開始前に、袴田専務理事より、菊地陞元会長が旭日章受章を受勲された。本来ならば諸官庁での伝達だが、感染拡大防止を図るため昨年来それらの行事は行われていない。本日はおめでたいことであり、皆さんとともにお祝いを申し上げる意味から松丸会長より勲記並びに勲章をお渡ししたい、との発言があった。

松丸会長より、菊地陞元会長へ勲記並びに勲章が渡された。

松丸会長が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

1. 会長あいさつ

私たち、スポーツ団体は、企業のように税金を払う団体ではなく、逆に公金の補助をいただいている団体であります。その意味では、企業よりもさらに社会的な存在価値、これを認められる組織にならなければなりません。協会が永続し、発展をするためには、常に変化する社会における存在意義を自ら問い続けて、変化をしていかなければならないと思います。本日の審議事項や報告事項には、今私が申し上げたようなことに関連する項目も非常に多いことから、皆様の活発な議論を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

2. <審議事項>

1. 中期計画の骨格について

松丸会長より、p1「中期計画骨子」に基づいて説明がなされた。

- スポーツ団体ガバナンスコードに中期計画策定とあるので、それに沿った表現を使っているが、趣旨は協会の将来構想についての策定である。
- 各委員会より若手委員1名を会長と委員長で指名して、プロジェクトチームを編成する。
- 将来構想は、2022年2月の理事会で諮る予定。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

2. 電子標的再公認料

袴田専務理事より、p2「電子標的再公認料変更(減額)案」に基づいて説明がなされた。

- ブロックの加盟団体役職者との打ち合わせで説明し、多くの方に賛同いただいた。
- 2022年度から実施したい。
- 2022年2月の理事会で諸規定の改訂版を示したい。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

公認記録登録料

競技運営委員会の公認記録登録料が資料には報告事項としてあげられていたが、審議事項と表記間違いであったので、議長が訂正した上で審議を行った。

袴田専務理事より、p2「競技記録登録料導入案」に基づいて説明がなされた。

- ブロックの加盟団体役職者との打ち合わせで説明し、意見を頂戴した。
- 指定のフォーマットで記録を提出してもらい、登録した時点で大会の主管団体へ、登録料の売上をたてる。
- 予選、本選、決勝、第1ステージ決勝等一連の記録の扱いについては、大会参加費を一回しかうけていないものについては登録料も1つにする。

田村副会長より、記録登録料について、高校生以下は無料にすべきである、との発言がなされた。

松丸会長より、高校生以下を無料にしても減収は50万円に満たない金額のため、経費節減と他からの増収を図って賄える金額ではないかとの発言があった。

議長がはかり、説明案を高校生以下0円と訂正した内容にて全員異議なく承認された。

3. 内部管理体制の整備に関する基本方針制定の件

小風コンプライアンス委員長より、p3「公益社団法人日本ライフル射撃協会内部管理体制の整備に関する基本方針制定の件」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

4. 会計処理規程改正の件

小風コンプライアンス委員長より、p11「公益社団法人日本ライフル射撃協会会計処理規程改正の件」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

5. 2022年度育成アスリート・ナショナルタレント指定基準及び海外派遣要綱

三木ジュニア育成委員長より、p22「2022年育成アスリート・ナショナルタレント指定基準及び海外派遣要綱(案)」に基づいて説明がなされた。

袴田専務理事より、案で120発(50m 3x40発)種目となっているが、60発(50m 3x20発)種目として発表してほしい、との意見がなされた。

三木ジュニア育成委員長より、了解した、との回答があった。

松丸会長より、ジュニアは20歳以下という大きな括りなのでユースやカデット

の選手も含めている理解で良いか、との質問がなされた。

三木ジュニア育成委員長より、その通りである、との回答があった。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

6. ハンティングライフルの規定変更

尾崎競技運営委員会認定部会長より、p27「ハンティングライフルの規定変更に関する検討」に基づいて説明がなされた。

袴田専務理事より、エアハンティングライフル、22口径、大口径等全てのハンティングライフルを含むという理解で良いか、との質問がなされた。

尾崎認定部会長より、その通りであるとの回答があった。

袴田専務理事より、今主流として売れているものが来ても現状では推薦を出せない状況であり、推薦を出す根拠を定めるために変更する必要がある、との説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

7. クウェート・日本国交60周年記念共生射撃大会開催の件

佐橋競技運営委員長より、p28「クウェート・日本国交60周年記念共生射撃大会開催の件」に基づいて説明がなされた。

- 約40万円という予算を一般会計のところから拠出していただきたいという趣旨の審議事項である。

松丸会長より、2020東京大会のビジョンである多様性と調和、そして共生社会の実現、を具現した活動を射撃界からやっていこうという提案である、との説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

8. 公認審判員の承認

佐橋競技運営委員長より、p29「公認審判員について」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

9. 日本記録の公認

栗生競技運営委員会記録部会長より、追加資料4「日本記録・国内最高記録(案)」に基づいて説明がなされた。

議長がはかり、全員異議なく説明案の通り承認された。

3. <報告事項>

1. 会長・副会長報告

- ふるさと納税寄付

松丸会長より、p30「協会の収入源について」に基づいて報告がなされ、協力をお願いがなされた。

- ブロック会議状況報告

松丸会長より、ブロック会議においてp35全加盟団体の会長や理事長等に、協会の考えている事業内容を説明しp36のとおり理解をいただいた、との報告があつ

た。

- 事務局長会議開催予定

松丸会長より、順番が前後することを断った上で、全国事務局長会議開催予定について口頭で説明がなされた。

- 全国事務局長会議は、1月22日に開催する。
- 全国事務局長会議では、各委員長から加盟団体の事務局長へむけて、協会がやろうとしている事を説明したいので、各委員長に参加をお願いしたい。
- 事務的なフォローは、事務局から行う。

- 委員長人事報告

松丸会長より、委員長人事について口頭にて報告がなされた。

- 競技運営委員会は、日本ライフル射撃協会の看板委員会として、ジェンダーフリー、オリパラミックス、大会のビジュアル化、オリンピック種目にこだわらない生涯スポーツの開発と導入、記録公認量の導入と定着、競技会の補助制度の構築等をおこなっていく必要がある。
- (松丸会長が) 企画立案した事業も多いので、1月より3月までは松丸会長が競技運営委員長をつとめ、副委員長として佐橋常務と田中辰美理事兩名に手伝ってもらう。
- その他の部会長、委員についての変更はない。
- 2月の理事会の時には、新しい委員会構成と新しい競技運営委員長人事について発表したい。

- ASC 執行委員会と総会の提案報告

松丸会長より、口頭にて報告がなされた。

- ASCの執行委員会と総会において、共生社会に向けた第一歩を射撃競技から行うためにオリパラミックス競技会の企画をするように提案をした。
- ISSF 会長リシン氏と ASC 会長代行オタイビ氏の会談の結果、大陸配分のオリンピック出場枠が増える事になった。

松丸会長より藤井優名誉副会長へ意見がもとめられ、藤井優名誉副会長から発言がなされた。

- ISSF と ASC に今まで亀裂があり、その影響の1つとしてアジアに対するオリンピック出場枠の配分が少なかった。
 - 是々非々で意見を述べる日本の姿勢が信頼を得て、松丸会長が ISSF と ASC のインターフェースになり、日本だけでなく、アジアにも恩恵をもたらした。
- 松丸会長より藤井彌事務局長へオリンピック出場枠改定に関する解説がもとめられ、藤井彌事務局長から説明がなされた。

- アジア大陸内の大会で配分されるオリンピック出場枠数が、従来の38から48へかわった。
- 2024パリ大会から適用される。

- 日立システムズの射撃スポーツ支援終了報告

松丸会長より、日立システムズが2021年度末をもって射撃競技への支援、およびスポンサー契約を終了する報告がなされた。

田村副会長より、2021年度末をもって歴史あるクラブチームの幕が閉じられるが、これまでの射撃競技発展へのご尽力に感謝し、協会に対して長年ご支援をいただいたことへの御礼を述べられた。

日立システムズに所属する源理事より、協会からの長年の指導に対する御礼が述べられた。

2. 委員会報告:

1) 総務委員会

- 2021年度半期決算報告

袴田専務理事より、p37「2021年度上半期収支決算書」に基づいて報告がなされた。

- 巻頭言執筆者対象の拡大

松丸会長より、各委員長が直接発信する機会が少ないので、機関誌であるライフルスポーツの巻頭言にて持ち回りで発信していただきたい、との説明がなされた。

2) 推薦委員会報告

- 空気けん銃の所持に関する推薦基準

大野推薦委員長より、p44「空気けん銃の所持に関する推薦基準」に基づいて、報告がなされた。

- 現在は、警察庁に改訂案を提出し、協議している。
- わかりやすい推薦基準をつくり、ニチラネットでの自動判定に活かす。
- 今まで再推薦は、点数、段級、回数に応じて判定していたが、今度からは525点というシンプルな点数にする。

袴田専務理事より、口頭にて補足説明がなされた。

- 成年の推薦は、参加機会が少ないビーム・ライフル種目を対象外として整理した。
- 年少の推薦は、年少の期間においてライフル種目から空気けん銃を所持するより、ピストル種目からの方が競技力向上には有効と判断し、エア・ライフルとビーム・ライフルを対象外とした。
- 再推薦にあたっては、AP60で言えば525点の2段相当の実績を作れば再推薦をします、ということで整理した。

岸高監事より、要綱の変更は警察との交渉が終わった段階であるのか、との質問がなされた。

松丸会長より、その通りである、との回答があった。

藤井彌事務局長より、要綱の末にある日付はどのようになるのか、との質問がなされた。

小風常務理事より、警察に承認された日付になり、承認されなかった場合は無効になる、との回答があった。

高橋理事より、前回の理事会で2回目の推薦については出場基準を満たした上で520点程度という話があったが、その話はなくなったのか、との質問がなされた。

大野推薦委員長より、(推薦委員会で) 諮り、今日からダメだというわけではない、との回答があった。

高橋理事より、段位はこれから全く関係ないという理解でよいか、との質問がなされた。

大野推薦委員長より、2丁目を所持する場合に段位は必要だが、再推薦については点数とする、との回答があった。

- 審査結果報告
田中推薦副委員長より、p42「推薦委員会審査結果報告」に基づいて、報告がなされた。
- 3) 国体委員会報告
 - 栃木国体大会要項
平井国体委員長より、p45「[26] ライフル射撃競技」に基づいて報告がなされた。
 - 種別は、ミックス成年ミックス少年という形になった。
 - 男女混合ということで、天皇杯の得点には入るが、皇后杯の得点対象にはならない。
 - 男女混合競技を実施するのは、栃木大会が国体史上初であり、ライフル射撃競技と陸上競技において行われる。
- 4) 2020 東京オリパラ準備運営本部報告
(報告なし)
- 5) 選手強化委員会報告
田村副会長より、選手強化委員長を辞任しているが引継ぎ期間であるので報告する、との発言がされた。
 - NT 選手選考状況
NT 選手については、暫定要綱で NT 基準点を多くの選手が達成しており期待できる、と報告がなされた。
 - 外人コーチ入国予定
外国人コーチの来日は、韓国の入国禁止措置が続き、キム・ウーヨンコーチが長らく来日できなかったが、水際対策強化に係る新たな措置で文科省に申請し、査証取得が可能になった。ゴランコーチ、エミールコーチを含め、新たなオミクロン株で入国に影響を受けているが、今後の情報に注視して早く来日できるよう努めたいと報告がなされた。
- 6) ジュニア育成委員会報告
三木ジュニア育成委員長より、報告がなされた。
 - 東アジアユースエアガン大会派遣選手について
p52「東アジアユースエアガン大会派遣選手について(案)」に基づいて報告がなされた。
今年度も NTC に集まり、リモートにて実施する、との説明がなされた。
 - 全日本小中学生選手権開催
延期となっていたが、埼玉県ライフル射撃協会の協力を得て 12 月 18 日、19 日に開催できる事になった。
 - 全日本小中学生ライフル射撃選手権大会 (AR/AP) 開催
神奈川県ライフル射撃協会の協力を得て、1 月 15 日 16 日を行う運びとなった。
- 7) 競技運営委員会報告

佐橋競技運営委員長より、報告がなされた。

- 競技大会の補助
追加資料 1「全日本ライフル射撃競技選手権大会 BR/BP G2 に対する大会助成金交付の件」、p53「(題名なし)」に基づいて報告がなされた。
 - 大分、高知の電子標的公認
P54「電子標的の再公認申請書」、P54「電子標的再公認のための委託作業費用について」に基づいて報告がなされた。
 - オリパラミックスイベントの JOC, JPSA の後援決定
口頭にて後援が決定された、との報告がなされた。
 - 2022 事業計画案
P66「2022 年度 主催競技会計画」に基づいて報告がなされた。
 - インテグリティ講習受講期限の改定
追加資料 2「インテグリティ講習受講の有効期限の改定」に基づいて報告がなされた。
 - 2 月に向けた検討課題
P68「2022 年 2 月理事会に向けた検討事項」に基づいて報告がなされた。
 - 記録の報告
指定されたエクセルフォームにて、G1 から G4 までの競技会実績登録として 1 週間以内に提出していただきたい、との発言がなされた。
 - ISSF のルール改定
12 月 2 日に ISSF のホームページに新しいルールがアップされており、大きな変更としては、(1) 50m 3 姿勢種目が 120 発から 60 発になり、予選と本選を実施する形になったこと、(2) ファイナルが全てポイント制とメダルマッチ形式になったこと、との報告があった。電子標的のシステムがどこまで対応できるかわからないが、4 月から G1 大会自体は、この形にできるようにすすめて行きたい、との発言があった。
 - 指定された協会主要大会助成金
田村副会長より、全日本選手権ビーム大会分散開催で大幅赤字となった和歌山県ライフル射撃協会から相談を受けた。同大会は、結果として、協力した地方協会に日ラが負担を強いることになった。今後も協力を得るために、該当県にはしっかりと説明するように、との発言がなされた。
佐橋競技運営委員長より、承知したとの回答があった。
- 8) 普及・生涯スポーツ委員会
 - 社会貢献事業の見送り
松丸会長より、まだ感染拡大が収束していなので、外部のものが高齢者施設への立ち入りというものができない。来年度に実施したい、との発言があった。
- 9) マーケティング委員会報告
 - プロジェクト中間報告
近藤マーケティング委員長より、追加資料 3「マーケティング委員会」に基づいて報告がなされた。
松丸会長より、2007 年に NRAJ 中期行動計画を策定し、会員数 1 万人を目標

としたが、なかなか達成できておらず、精密射撃スポーツ競技から競技人口を増やしていくというアプローチに限界があると考えている。eSportsという桁違いの市場があり、そこにオリンピックバーチャルシリーズとして入って行き、その過程において普及を図っていく、との発言がなされた。

10) コンプライアンス委員会報告

小風コンプライアンス委員長より、倫理規程やガバナンスコードとの関係でどういった点が論点になるのかと言うことを整理した上で、1月22日の全国事務局長会議において、協会の倫理規程の内容を加盟団体に承知していただき、論点に関するご意見をいただきたい。整理した内容を2022年度3月と6月の理事会を経て社員総会にて諮りたい、との発言がなされた。

3. 会務報告

1) アスリート委員会開催報告

藤井彌事務局長より、11月11日17時からアスリート委員会が開催された。松丸会長が冒頭に出席して協会の方向性を話した上で退出した。そのあとは、アスリート委員会の委員同士で意見がかわされ、何かあればアスリート委員会から上がってくるという形になっている、との方向がなされた。

2) オリパラ公式スウォッチ（税込9900円）のご案内

藤井彌事務局長より、現在在庫が30個ほどあり、事務局まで積極的にお問合せください、との発言があった。

3) その他

松丸会長より、アーチェリー連盟では競技会報告が全てデータベース化されており、当協会からも勉強に伺いたい、との発言がなされた。

16時30議長が閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2021年12月4日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事 松丸喜一郎

松丸喜一郎

代表理事 田村恒彦

田村恒彦

代表理事 袴田登喜造

袴田登喜造

代表理事 横山幸子

横山幸子

監事 香西俊輔

香西俊輔

監事 岸高 清

岸高 清

以上